



うちのイチ押し!

大阪市

こどもカーニバル

いっしょに遊ぼう・家族・友だち・たのしい時間

市内の青少年団体などの協力を得て、
全市のこどもたちが家族や友だちと
楽しく遊べることも同士の交流の場として、
わくわくドキドキの楽しい催しを行います!

2014

●セレモニー広場

こどもたちによる鼓笛隊やブラスバンド等の演奏などが行われます。

●わんぱく広場

スタンプラリー、大道芸、ゲーム、ストラップ工作など。

●遊び体験コーナー

紙飛行機チャレンジや火おこしの体験など。

●模擬店など

こどもと育成者の体験と交流の場として実施されます。

日時 **4月27日(日) 10:30~15:00**

※雨天中止(小雨決行)

場所

大阪城公園 太陽の広場、野球場
(JR「大阪城公園」、地下鉄「大阪ビジネスパーク」)

対象

こどもと家族(市外からの参加も可)

費用

入場無料(コーナーにより一部有料) **申込** 不要

お問い合わせ

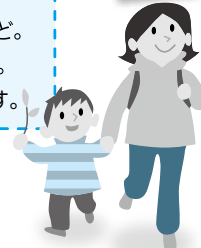
大阪市子ども会育成連合協議会

電話:6941-1116(平日午前10時~午後5時)
FAX:6943-8906

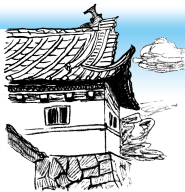
大阪市 こどもカーニバルとは

市内の青少年団体などの協力を得て、青少年の健全育成を願い、昭和54年から開催されています。

広場中央で行う開会式(10:30~)では、小学生による開会宣言、中学生などによる式典演奏など、こどもたちが主役になって活躍し、さまざまな催しで、一日中笑顔と歓声があふれるカーニバルです。



こどもカーニバル会場



おおさか歴史探訪 78

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

難波橋のライオン像 —都市を彩る芸術作品—

中之島を挟んで土佐堀川と堂島川に架かる難波橋は、ライオン橋の愛称で市民に親しまれています。大正4(1915)年に完成したもので、石造の装飾塔や中之島に降りてゆく石段など、中之島の景観になくはない存在といえます。

ライオン像は難波橋の南北両端の東西に1対、計4点が置かれています。花崗岩製で、像の高さは165センチメートル、台の高さを含めると350センチメートルもある堂々としたものです。像は同じ形をしているのではなく、橋に向かって左側が阿形、すなわち口を開いています。右側は吽形、つまり口をつむんでいます。ちなみにこれは神社にある狛犬とは逆の配置です。

このライオン像の作者は天岡均一(1875~1924)といい、兵庫県三田市の出身で、東京美術学校(現、東京芸術大学)を卒業した後、主に大阪で活躍しました。第6代大阪市長池上四郎の依頼によりこの像はつくられました。鉄製の小型模型をもとにして、石工を指図して作成したといいます。花崗岩は非常に硬いので、大変に困難な作業であったようです。石工は斎戒沐浴をしてやっと完成したという新聞記事があります(「毎日新聞」大正4年5月22日)。

明治末期から昭和初期にかけて、橋は都市景観の構成要素として外観が重要視されました。大阪市は特に都市の美観に力を入れていました。またこの頃から市民が芸術に親しむことができるようになり、都市の中にも彫刻などの芸術作品が飾られるようになりました。難波橋にライオン像が飾られるようになったのは、このような時代の風潮の表れといえます。
(大阪市教育委員会 文化財保護担当)



難波橋ライオン像(阿形)



難波橋ライオン像(吽形)

